



AUE News

2011年8月15日

第 22 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目 次

- 省エネニュース@愛教大
- 行事予定(8月16-31日)
- トピックス
 - ・ 知の探求講座
 - ・ 先生のための夏休み経済教室
 - ・ 竹のインスタレーション
 - ・ 震災ボランティア結団式
 - ・ 刈谷市との大学連携講座
 - ・ 遠泳実習
 - ・ 天文台一般公開
 - ・ 管弦楽団定期演奏会
- ・ 教員免許状更新講習
- ・ 台湾師範大学と交流協定締結
- ・ 本学で火災発生
- ・ 公開講座「絵画の中の幾何学」
- ・ 附属学校安全研修会
- ・ 公開講座「かなの基礎的な書法講座」
- お知らせ・報告・投稿
 - ・ 同窓会名簿の発行について
 - ・ 全国大学保健管理研究集会
 - ・ 催しもの案内

省エネニュース@愛教大

2011年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」に省エネに関するニュースを順次掲載していきます。テーマは、「本学の省エネについてのもっと知って、もっと行動しよう！」です。初回はNo.1～4(作成はいずれも「省エネワーキンググループ」)を一挙掲載します。どうぞ、この夏の節電にご協力ください。

省エネニュース NO1

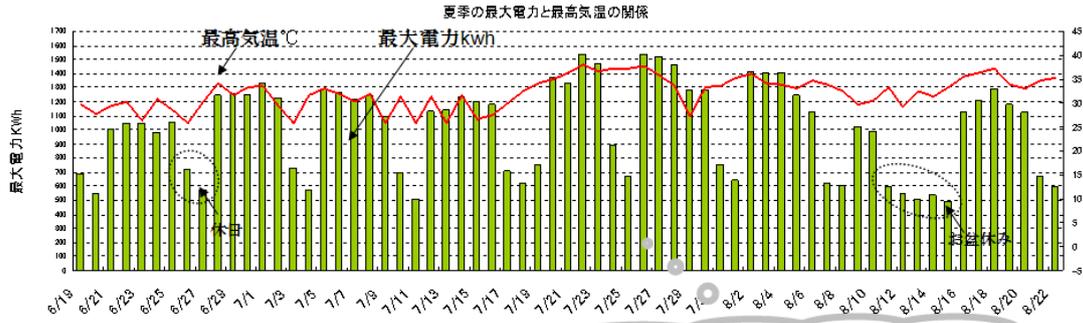
●「省エネ活動」にご協力をお願いします！

以下の項目について、出来ているか時々チェックしてみましょう。

- 昼休みの消灯、不在箇所・支障のない廊下階段等の消灯
- パソコン、複写機、FAX等の待機時省エネモードの設定
- 電気ポット等の電気製品を長時間使わないときは、コンセントからプラグを抜く
- 長時間部屋を離れるとき及び昼休みには空調機の電源を切る
- 空調の室温を夏季28℃、冬季19℃に調整
- 空調停止（デマンド警告メール受信時）
- 冷暖房時のドアや窓の不要な開閉をしない
- 春・秋の中間期は窓の開閉で室温調整
- 窓ガラスからの入熱・出熱を遮蔽するブラインド、カーテンの有効活用
- エレベータの利用を控える
- 照明ランプ及び灯具の清掃（年1回以上）
- 空調機のフィルター清掃（2週間に1回）※家庭用ルームエアコンの場合



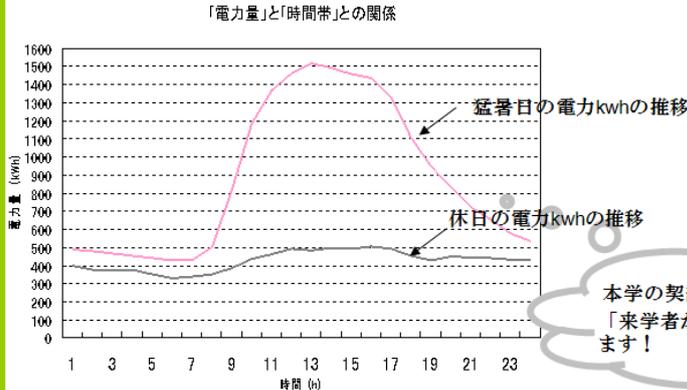
省エネニュース NO2



●本学の使用電力について(夏季)

- ①7月～8月の猛暑予想日は、特に「省エネ」対策が必要です！
- ②電気室,生活排水処理施設,低温室やサーバー室等の設備で夏季約400～500kwh使用しています！
- ③照明,便所,実験・演習機器等の日常使用の設備で約400～500kwh使用しています！
- ④空調設備は,気温の上昇と関係があり,猛暑日で最大650kwh程度使用しています！

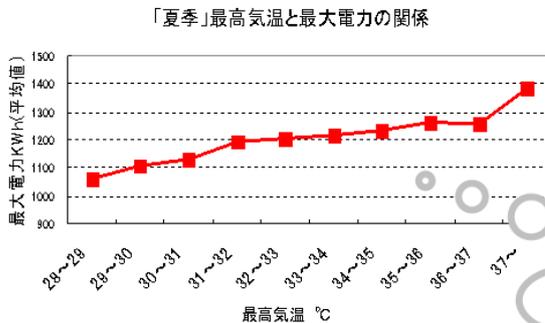
省エネニュース NO3



●本学の電力使用について(夏季)

- ①猛暑予想日の11時～17時は,特に「省エネ」対策が必要です！

省エネニュース NO4



●空調機「省エネ」のポイント

- ①冷やしすぎは厳禁です！(室内温度28°C)
- ②外室時は,スイッチoff！
- ③定期的にフィルター清掃！
- ④空調している部屋の共同使用「シェア空調部屋」の推進！
- ⑤できれば省エネ機器への更新！



行事予定(8月16-31日)

16日(火) 大学一斉休業

22日(月) 役員会(13:00～ 学長室)

トピックス

知の探求講座(8/1,8-11)

自然科学や情報科学などの分野に関心のある高校生により深く学んでもらおうという「知の探求講座」が本学で8月1日(月)から開講された。

「知の一」は、愛知県教育委員会が主催し、県内6大学の協力で、より多くの高校生に先進的な理数教育を受ける機会を積極的に与え、科学技術創造立国をめざす日本を支える優れた人材を育成することを目的に開催。本年度は6大学で開講される講座に計135人の高校生が参加し、夏季休業中から2学期にかけて8日間程度の実験・実習に取り組む。本学では「生物多様性と地球と宇宙の探求」をテーマに、I期として8月1日、8日(月)～11(木)に、生物の多様性や天体を学ぶ講義や実習が行われた。



8日の講座内容は「タンポポのDNA鑑定から知る生物多様性」と題した講義と観測実習。この日は高校生9人が参加して、自然科学棟の理科実習室で、DNA鑑定のためのDNAを製精する方法を学んだ。花粉を電子顕微鏡で観察しながら、薬品を使ってDNAを観察するという高度な実験とあって、高校生は渡邊幹男教授(理科教育)の指導で、アシスタントの大学院生や学部学生の助けを借りて、慎重に観測に臨んだ。

参加した高校生は「高校では生物の実験ができないので、楽しいです」「DNAは薬品がないと見られないので専門的なことを体験できて、面白い」と目を輝かせていた。

なお、10月以降もII期として、本学では地学に関する内容の講座が引き続き行われる予定。



先生のための夏休み経済教室(8/1,2)



8月1日(月)、2日(火)にウインクあいち(名古屋市)において「先生のための『夏休み経済教室』in名古屋」が開催されました。これは経済教育ネットワークと東京証券取引所の主催で東京・大阪・名古屋・福岡で学校の先生や教育関係者、教員になりたい学生等を対象に、学校の授業で経済を教えるために必要な経済学の知識を学ぶのが目的です。名古屋での開催は3回目となり、中学校対象の1日は63人、高等学校対象の2日は79人名の参加があり、愛知教育大学からも学生の参加がありました。

初日の中学校対象の講座では、新学習指導要領とその解説に基づいた新しい教科書を用いた授業の方法、授業実践の事例紹介やシンポジウムを行いました。2日目の高校対象の講座では、高校教科書で経済を教える方法や地理歴史を経済学の視点で読み解いて授業につなげる方法、経済に関する大学入試問題の解説が行われました。

経済知識は個々人の生活の改善と社会全体の発展のためには欠かすことのできないものですが、学校教育において日々刻々と変化する経済について取り上げることは難しい



面があり、積極的に取り組まれているとは言い難いのが現状です。今回の講座で経済学者や教育学、学校で実践されている先生方からわかりやすく解説を受けることで経済について認識を深め、授業に活かすことができると期待されています。受講された方からも好評で、主催者も次年度に向けてさらに充実し、発展させていくことを目指して準備を進めております。今後とも本学から多くの方が参加されることを願っています。

(地域社会システム准教授 水野英雄)

竹のインスタレーション(8/4-6)

本学の敷地内に広がる荒廃した竹林の整備と再生を目標に、エコキャンパスプロジェクトの一環として今年度から「竹プロジェクト」がスタートしました。日本でも古くから使われてきた竹を資源として、何かできることはないか、というのがこのプロジェクトの始まりです。

第1弾では7月に竹でできたアーチを使った「七夕ロード」を第一共通棟の北側に設置しました。今回は「竹を使ったインスタレーション」という課題で彫刻基礎を受講した美術科の1年生全員と造形文化コースの2年生の一部の学生が9班に別れて共



同制作をしました。

インスタレーションとはさまざまな解釈がありますが、いわゆる空間芸術といって、作品そのものだけでなく、周囲の空間と調和していたり、空間そのものをつくってしまうことを指します。慣れない竹という素材に苦戦しながらも、休日にも各班で準備を進めてきました。8月4日(木)にはそれぞれの作品の発表会をし、宇納一公先

生(美術教育教授)からの講評を受け、いろいろなことを考えさせられました。美術棟前の亀池内に出現した高さの異なる26本の竹には、これからステップアップしていくという願いが込められ、内部に灯るロウソクの火が暖かみのある光を演出し見る人の心を癒してくれるという作品もありました。

次回の企画も進行中であり、これからも竹を使ったさまざまな作品を学内のみなさんや地域の方に楽しみにしてほしいと思います。

(大学院芸術教育学 美術科内容学領域 1年 林幹久)



震災ボランティア結団式(8/5)



夏季休業中に東日本大震災の被災地、宮城県への教育復興支援ボランティアを派遣するのを前に、「ボランティア結団式」が8月5日(金)午後4時40分から、本部棟3階第五会議室で行われた。

本学では震災直後から、宮城教育大学、福島大学への緊急物資の支援を実施し、学生のボランティア派遣の準備を進めてきた。宮城教育大が受け皿になり、ボランティア活動の調整が整ったことから、第一陣が7日(月)～13日(土)に現地入り、その後、約1週

間単位で派遣が行われることが計画されている。

結団式には、ボランティアの約 10 人の学生と、学生を引率する教職員らが参加。松田正久学長が冒頭あいさつに立ち「私も 6 月に宮城教育大でのシンポジウムのため現地を訪れましたが、災害は凄まじいものでした。本学在学生の保護者で被災地の小学校教員の方からの手紙などから、先生の力はすごいと感じていました。ボランティアとして現地の小中学生と交流する中で、君たちの人生に得るものがきっとあるはず。何より健康に気をつけて、現地の子どもたちを元気にしてください」と激励した。山本良夫学生支援部長からは、ボランティアの手引書と生協が提供したユニフォームのポロシャツが配られ、手引書の説明がされた。



続く自己紹介では、ボランティアに応募した理由や抱負を一人ずつ発表。「相手の目を見て活動するチャンス、自分のできることを精一杯やりたい」「教師になったとき、この経験を生かしたい。いろんなことを学んでいきたい」「心理学を学んでいますが、募金活動では“心の傷”をいやすことはできない。被災した人の心の傷を少しでも軽くできたら」とそれぞれが思いを語った。

ボランティア終了後は活動の様様を大学に報告し、いずれ記録を作成する予定。参加者には大学がボランティア証明書を発行し、報告会を開いてボランティアに参加しなかった学生にも活動の体験を伝えることが計画されている。

刈谷市との大学連携講座(8/6)



刈谷市教育委員会との大学連携講座が今年度よりスタートした。会場は刈谷市総合文化センター。市内に在住または在勤の方を対象とした講座である。前期講座として、科学・ものづくり教育推進センターの佐々田が講師を務め、三つの講座（『火星隕石—なぜ火星の石と考えるのか—』、『誕生石の文化と科学』、『虹色の宝石—オパール—』）が開講された。市民講座の常連である夫婦、科学や宝石が好きな方などを中心に、毎回、20 人程度の参加があった。

各講座の前半では、カラー写真を多数使用して、参加者全員が納得できるように工夫して解説した。講座の後半では、テーマに関連した原石標本の観察会と質問への回答を行った。火星隕石では、実体顕微鏡を使用して、火星起源の根拠となる高圧変成ガラス（ザガミ隕石）と集積岩構造（ナクラ隕石）の存在を、全員が確認した。誕生石では原石標本 40 点を、オパールでは原石標本 26 点を、手に取って、観察を行った。講座の終了後、追加の観察会と質問時間を設けたが、熱心な方が多く、毎回、延長時間は 30 分に及んだ。



後期講座の受け付けは 9 月 1 日より開始される予定である。詳細は『愛知教育大学公開講座』パンフレット (http://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/files/kokaikoza_110413.pdf) を参照されたい。写真提供は刈谷市総合文化センター。
(寄稿：科学・ものづくり教育推進センター研究員 佐々田俊夫)

遠泳実習(8/6-8)

感動！ 達成感と一体感の体育科大遠泳

8 月 6 日（土）～8 日（月）に知多半島は山海海岸で体育の臨海実習が行われました。本学で

は既に 50 年近く遠泳（山海～つぶて海岸までの約 4km）をずっと続けて実施しています。体育科 2 年生のプールと海の実技単位の授業です。全員が完泳することを目標に組織的に行われる大きな行事の一つです。教員、非常勤講師、補助学生、船頭さん他たくさんの人たちに支えられてはじめて達成できるものです。私が赴任して以来 36 年間、無事故でやってきましたが、全員が泳ぎ切ったときの感動は学生のみならず、我々も心が揺さぶられます。



全てがうまく行っているわけではありません。自然の条件に左右されるので、やむなく中止することもありました。しかし、全員が一つの屋根の下に寝食を共にし、一つの大きな目標に向かって共に助け合い、共同生活できる唯一の授業です。多くの卒業生が現場の教員になっていますが、会の集まりなどでは必ず臨海実習の話題が出てきます。それだけ思い出深いものとなっているのでしょう。近年、人と人のコミュニケーションが希薄になってきたと言われますが、ここでは、学生同士が共同生活する上で助け合いの気持を理解し、支え合うことの大切さを肌で感じ取って実践、行動してくれます。感性豊かな教員としての資質の一部がここで形成されると言っても過言ではないと思います。我々もその手助けはしますが、



遠泳の当日は学生同士のまとまりは非常に強くなり、お互いを思いやる気持が我々に伝わってきます。体育の実技では特に、できる、できないがはっきりしますが、この大遠泳では隊列を組み、みんなで全員完泳するぞと一丸となり 2 時間から 3 時間近くもかけて泳ぎ切ります。ゴールしたときの達成感、一体感は見ていると本当に感動させられます。

今回は 74 人全員が自力で完泳しました。完璧です。前代未聞の快挙です。最後に、彼らのエネルギーの凄さと、これからの将来の可能性が大いに開けていくのではないかと思います。この感動を共有できる喜びに感謝しています。
(保健体育教授 合屋十四秋)

天文台一般公開(8/6)

本学天文台で「第 65 回一般公開」が 8 月 6 日（土）午後 6 時から、自然科学棟 5 階と屋上天文台で開催された。

夏休み期間とあって、今回は子どものための講座。午後 6 時から天文ミニ講座「月はどのように形と位置を変えるの？」をテーマに、講師の澤武文教授（理科教育）が「月はおよそ 29.5 日で満ち欠けを繰り返しています。私たちが使っている暦の 1 カ月はこの満ち欠けの長さからきています」などと説明し、月の特性や満ち欠けの理由などを画像を使って、詳しく紹介した。



同 7 時から屋上で観望会「月の写真撮影にチャレンジ」がスタート。40 cm 望遠鏡では月の表面のクレーターが鮮明に見え「すごい〜！」と子どもたちから思わず歓声上がり、それぞれ持参したデジタルカメラなどで月の撮影をして、満足そうだった。月のほかに、土星を観測した小学生は「ドーナツの中にアメが入っているみたい。かわいい形だった」と感激の表情。また、同時に国立天文台が開発した宇宙立体映像用ソフト「Mitaka」を使った 3D 映像上映会「3D 宇宙の旅—太

陽系」や、月の隕石の観察なども行われた。

この日は、親子連れや天文ファンなど 39 人が参加。同時刻に岡崎市や三好町での花火大会も開催され、二つの花火大会も屋上から見られるスペシャルな観測会となり、参加者は夏の夜空を満喫していた。

管弦楽団定期演奏会(8/7)

本学管弦楽団の「第 75 回定期演奏会」が 8 月 7 日（日）午後 6 時 30 分から、名古屋市東区の愛知県芸術劇場コンサートホールで行われた。



年に 2 回、夏休みと年度末に開催される定期演奏会。今回はベルリンを拠点に活躍中の若手指揮者、道端大輝氏を客員指揮に迎えて、団員、OB ら総勢約 110 人が出演、4 月からの練習の成果を披露した。

曲目は J. マスネ 組曲第 3 番「劇的風景」、E. フンパーディンク 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」より前奏曲、F. メンデルスゾーン 交響曲第 3 番「スコットランド」。壮大な演奏で観客を魅了した。

アンコール曲は同じくメンデルスゾーン

「真夏の夜の夢」より「結婚行進曲」が演奏され、華やかでドラマチックな旋律に大きな拍手が送られた。

教員免許状更新講習(8/8-24)



夏期の教員免許状更新講習が 8 月 8 日（月）から本学で始まった。24 日まで。

同講習は 2007 年 6 月に教育職員免許法の一部改正で、2009 年度に教員免許更新制が導入されたことから開講されている。教員に共通して必要な内容を中心に、最新の知識技能を身につけることを目的に、本学でも学校種や教科に配慮した特色ある講習を幅広く提供している。今年度は 2012 年 3 月末と 2013 年 3 月末に終了確認期限を迎える人で普通免許状または特別免

許状を持つ現職教員等が対象。講習は必修領域 12 時間以上、選択領域 18 時間以上の計 30 時間以上の講習修了が課せられている。本学では今年 71 講座を開講し、延べ 3327 人が受講する予定。

8 日午前が開講された「教育の最新事情 IC」は 96 人が受講。生島亜樹子講師（学校教育）らが近年の教育課程政策の動向について解説し、受講者がメモをとるなどして熱心に聞き入っていた。午後が開講の「ものづくりと技術教育 A」には、小中高校などの技術に興味のある教員らが受講。宮川秀俊教授（技術教育）の座学の後、「木製パズルを作ろう」と題した実習が行われ、受講者は木材の特性や加工の留意点などを実際に体験し、その上で確認試験が実施された。



台湾師範大学訪問と交流協定締結(8/7-9)

松田正久学長は 8 月 7 日（日）から 9 日（火）までの日程で、台湾を訪問し、国立台湾師範大学（張国恩学長）と国際交流協定を結び、台北市の国立台北教育大学（林新発学長）を表敬訪問した。学長はサバティカルを利用して台湾で研究中の本学の北野浩章准教授と合流して、両大学を視察し、関係者と交流の成果をあげた。学長には中原道文法人運営部長が同行した。

8 日（月）午前 11 時半、台北市内の台湾師範大学を訪問した松田学長と北野准教授らは 1 階



応接室で張学長らと面談。松田、張学長は面識があり、握手して再会を喜んだ。師範大学側は呉正己教務長、陳秋蘭国際センター長、藩朝陽教授、本学卒業生（旧東洋学教室卒業）でもある藤井倫明副教授が出席して調印式を行った。

張学長は「皆さんを歓迎します。これから契約（協定）を結びますが、今後、学生、教員がお互いの交流を深めていきたい」とあいさつ。松田学長は「貴学にとっての協定は、本学が日本の教育大学として3番目で縁起がよいと聞きました。藤

井さんが本学出身と伺い、驚きましたが、愛知県は日本の中央に位置し、本学は車の町豊田市に隣接する自動車産業の集積地にあります。張学長はじめ皆さんにぜひ本学を訪問いただきたい。また、東日本大震災に寄せられた善意に感謝します」と述べた。松田、張両学長が2通の協定書に署名して調印し、プレゼントを交換して固く握手、式を終えた。この後、昼食を交えて懇談、今後の教員、学生の交流などについて和やかな雰囲気です。

師範大学は1946年設立。学生数約15000人余（うち大学院約8000人）。長年にわたる中等教育の教師陣の育成機関として知られ、56年設立の中国語トレーニングセンターは中国語を第二言語として学習できる台湾最大のセンターで日本からの留学生は400人、留學生は5000人に上るとのこと。松田学長らは昼食後、師範大学に戻り、職員案内で図書館、国語センターなど学内を視察して回った。



一方、台北市の都心にある台北教育大は1895年創立。学生数6000人余（うち大学院生2100人）、教職員205人。同大学訪問は9日午前10時過ぎ。学内を視察した後、林学長、黄嘉雄教務長、陳嘉煥教授、翁麗芳教授が学長室で松田学長らを出迎えた。林学長は「歓迎します。本学には日本人が作った古い講堂もあり、昔の卒業生たちはこの建物を見て当時を思い出しています。2005年の「学院」から「大学」への移行により教育学部に2学部（人文芸術学部、理学部）を加え、3学部があり、教員養成は40%で残りは非教員です。それでも台湾北部の幼稚園・小学校校長の60%は本学の出身者です。大学は狭いが、卒業生は10万人に上ります」と紹介した。



部屋を換えて両大学の意見交換に移り、松田学長が英語で本学の教育内容を説明。黄教務長、陳教授らが大学の概要を説明。陳教授からは本学との国際交流協定、学生の交換留学、ダブルディグリーなどの可能性について具体的に提案があった。松田学長は「ご提案は検討します。一度、学長ともども本学に来ていただきたい」と答え、引き続き台湾に滞在する北野准教授との調整を依頼。昼食を挟んで、林学長らと松田学長は、両大学における大学運営の違いなどを語り合い、帰国時間が迫るまで懇談した。

部屋を換えて両大学の意見交換に移り、松田学長が英語で本学の教育内容を説明。黄教務長、陳教授らが大学の概要を説明。陳教授からは本学との国際交流協定、学生の交換留学、ダブルディグリーなどの可能性について具体的に提案があった。松田学長は「ご提案は検討します。一度、学長ともども本学に来ていただきたい」と答え、引き続き台湾に滞在する北野准教授との調整を依頼。昼食を挟んで、林学長らと松田学長は、両大学における大学運営の違いなどを語り合い、帰国時間が迫るまで懇談した。

学内で火災(8/8)



8月8日（月）午後1時28分、本学の特別支援学校教員養成課程学生控え室において、火災が発生し、建物平屋プレハブ88平方メートルを全焼した。消火活動中、生協職員1人が煙を吸ったことにより救急車で搬送され、軽い炎症と診断された。現場検証が行われるなど、原因については調査中。

公開講座「絵画の中の幾何学」(8/9)

一般を対象にした公開講座「絵画の中の幾何学」が8月9日(火)午前10時から自然科学棟数学教育共同研究室で行われた。

身の回りに数学を見つけることの楽しさを味わってもらいたいと、石戸谷公直教授(数学教育)が講師を務め、絵画や写真の中の図形の規則性＝幾何学の世界を紹介。一般、高校生など11人が受講した。



スペイン

ンのアルハンブラ宮殿のアラベスク模様は単に美しいだけでなくユークリッド幾何学に基づいた完璧な秩序の中に構成されている、オランダの画家エッシャーはこれをさらに発展させて非ユークリッド幾何的な絵画を作成。同講座では、それらの作品と作図を通して、幾何学の世界に親しむという内容で、受講生は作品を「図形の移動」という観点から規則性を考察、作図の作業を通して数学の奥深さや楽しさを感じたようだった。



附属学校安全研修会(8/10)

本年度の附属学校の安全対策に関する研修会が8月10日(水)午後、本学本部棟3階第一会議室で開催され、7附属学校園の校長、教員、PTAなど約160人が参加した。講師は前文部科学省初等中等教育局児童生徒課長で政策大学院大学運営局長の磯谷佳介氏で「子どもの安全のために一連携と協働」をテーマにいじめ問題や危機への対応などについて語り、参加者は熱心に聞き入っていた。

研修会に先立ち松田正久学長があいさつ。磯谷氏が磯谷桂治本学名誉教授(美術)のご子息で、附属名古屋中学の卒業生であり、文科省高等教育局、学術国際局、研究開発局地震調査研究課長など幅広い分野を経験、要職を務めた経歴を紹介。「宮城県を訪問した際、危機に関して、東日本大震災被災地の先生が、ことが起きる前の訓練の重要性を認識したと話していたのが印象に残っている。附属学校が特色を生かしながら全体の存在感を高めていくためにも、本日の研修会の成功を期待しています」と述べた。

講演で、磯谷氏は学校保健安全法など学校における子どもの安全に関する法体系のポイントを解説。増加、低年齢化傾向にある学校での深刻な暴力行為への取り組みの重要性を指摘し、最近の問題行動について「都道府県教委に聞いたところ、自分の感情をコントロールできない、コミュニケーション能力の不足、規範意識の低下が挙げられた。子どもを取り巻く社会環境の変化として急激な少子高齢化、家庭・地域の教育力の低下、ネット・サーバー社会の急進展などがあり、大人社会を反映している」と述べた。学校でのいじめについて、認知した学校と認知していない



学校で取り組みに差があり、自殺を含めて「どの学校、どの子にも起こりうる」とした。

危機への対応として未然防止、早期発見、早期対応が重要で、学校内の「対話の文化」を強調。「討論は開始する前と後で変わらず説得し合うが、対話は相手の意見が正しいと思えば、自分の意見が

変わるという説があり、なるほどと思う。学校内で、教職員にコミュニケーションがあるかどうか、子どもたちは感じているのではないか。校長先生の日頃の行動も重い」と語り、子ども守り育てる社会的なネットワーク推進会議の意味を説いて講演を終え、会場からは大きな拍手が送られた。

公開講座「かなの基本的な書法講座」(8/11,18,25)

一般と教員を対象にした公開講座「かなの基本的な書法講座」が8月11日(木)午後1時30分から第一共通棟111教室で始まった。

同講座は、3回シリーズで、仮名の基本的な書法を学ぶため、「仮名の単体(いろは・変体かなの用筆)」「連綿のいろは(連綿の基本的な用筆)」「仮名の表現方法(行



書き・ちらし書きなど)」

についての実技講習を行うもの。衣川彰人准教授が講師を務め、今年度初めて開講された。

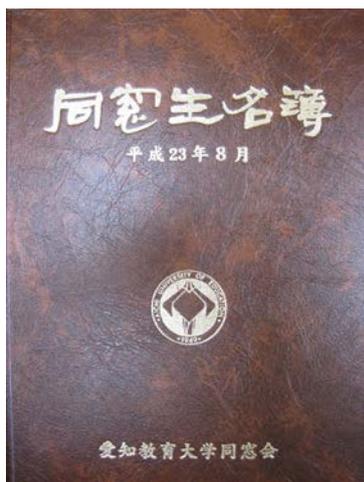
この日は、11人が受講。かなの書法を学ぶのは初めてという受講者が多く、かな用の筆の種類や墨、紙など基礎的な知識の説明を受けたあと、さっそく手本を参考に基本的な筆使いを実習。静寂の空間の中で何度も白い紙に筆を走らせてかなの書法のコツをつかみ、楽しんでいるようだった。



お知らせ・報告・投稿

愛知教育大学同窓会名簿の発行について(報告)

この度、4年ぶりに愛知教育大学同窓会の同窓生名簿を発行させていただきました。関係の皆様方のご尽力に厚くお礼申し上げます。平成11年に初めて全同窓生を掲載した名簿を発行してから4度目の発行となりますが、明治6年の愛知県養成学校から始まる愛知教育大学の138年の歴史と85,080名の卒業生を輩出していることの重みに感慨を深めております。



平成17年4月1日から個人情報保護法が施行され、有用性に配慮しながら、個人情報の権利を保護するようになりました。今回の名簿発行では、皆様にご理解頂きましたお陰で、また、名簿発行業務を委託しております株式会社サラトのご尽力によって、個人情報の保護に留意しながらも約87.4パーセントという高い判明率で名簿の作成を行うことができました。

少子高齢化の進行によって社会構造が大きく変化し、厳しい経済状況が続く中で「生きる力」を育むための教育の重要性は益々高まっております。本学の果たすべき役割や社会からの期待は大きくなっております。同窓会としましても、これまでも増して母校を支援することができればと考っております。

今回の名簿が母校への郷愁を駆り立て、同窓生相互の懸け橋となり、同窓会活動の活と母校の発展の一助となることを願っております。
(愛知教育大学同窓会 事務局長 野田敦敬)

ります。

全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会ほか(報告)

平成23年度の全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会第38回保健管理担当職研究集会と、全国大学保健管理協会第49回東海・北陸地方部会研究集会が7月20日(水)~22日(金)の3日間、本学当番により、刈谷市総合文化センターで開催された。

同会には、全国大学保健管理研究集会の一環として、東海・北陸地区大学における保健管理の

充実発展を図るため、専門的知識・技術の研修及び保健管理の研究成果の交換・協議を行うことを目的として、国立大学、公私立大学、短大、高専の教職員計延べ129人が参加した。

1日目の保健師、看護師、養護教諭等の資質を向上させることを目的として行われたシンポジウムでは、台風による不安定な天候の中、たくさんの関係者が参加し、充実した研究会となった。

2日目の地方部会研究集会開会式では、本学の山本良夫学生支援部長による開会の辞に続き、松田正久学長が主催者としてあいさつ。



松田学長は「大学を取り巻く情勢が変わってきました。皆様は様々な苦勞をされています。また、様々な問題を抱えられています。広い意味で言えば、保健と言いましても目的が、学生達が安心安全でキャンパスライフを送っていく、そのためのアフターケアと言うふうに思っています。今回は、皆様が様々な知恵を結集して、この刈谷で学んでいただき、それぞれの成果をそれぞれのキャンパスに持ち帰って、活かすなりしていただければ大変ありがたいと思っています」と述べた。続けて、菅沼教生保健環境センター長があいさつをした後の基調講演では、学長が講師として「学生支援と保健管理業務を巡って―単科大学の立場から―」と題し、愛知教育大学の特徴から保健管理の在り方について述べた。

続く教育講演では、本学の渡辺久雄名誉教授が「忘れられない学生たちと多角的課題解決療法」という演題で、過去の様々な症例を基に熱弁され、時間を少し延長したものの、より会場を惹きつけた。

午後から名古屋大学当番の地方部会総会を行い、終了後に場所を移動し、三つのパネルディスカッションに分かれ、各テーマごとに参加者の関心と呼んだ。

懇親会には39人が参加。本学落語研究会による楽しい漫談と、アカペラサークル「プルミエ」による参加者の皆さんの心を癒す生歌が披露され、場内の雰囲気は一気に和んだ。

研究集会2日目には、前日のパネルディスカッションの報告会に続き、本学の村松常司名誉教授による特別講演が、「青少年の健康支持への工夫 ―受動喫煙・喫煙防止・攻撃受動性・セルフエスチーム―」という演題で行われ、喫煙から現代のいじめ問題に流れる内容は会場の興味を一段と惹きつけた。

閉会式では本学都築繁幸理事と来年度同研究集会当番校となる福井大学の李鍾大保健管理センター教授があいさつをし、研究集会は閉幕した。



(学生支援課保健環境係 亀山重人)

催しもの案内

◆パネル展示「日本の地獄絵展」

8月19日(金)～28日(日) (入場無料)

刈谷駅前商店街「駅前ギャラリー スペースAqua」

UNOセレクションの第4弾。

地獄絵研究の第一人者、鷹巣純准教授(美術教育)の貴重なコレクションのパネル展。

◆愛知教育大学 学術講演会 寺脇氏が本学で「教育」を語る

9月9日(金) 15:00～17:00 (入場無料、学外の方も参加可能)

愛知教育大学本部棟 3階第五会議室

講師は寺脇研・京都造形芸術大学教授、演題「これからの教育を考える」

申し込みは8月31日まで。

問い合わせ先は、総務課 ☎0566・26・2115

編集後記

夏休み中ですが、学内では現役教員向けの免許状更新講習や、高校生を対象にした「知の探検講座」「高校生サイエンス・サマー・キャンプ」などの各種講習会が毎日のように行われています。授業こそないものの、学内には結構、人の出入りもある8日午後に火災が発生。駐車場近くにあるプレハブの学生控え室が燃え、一瞬、騒然としました。初期消火や駐車車両の移動などの対応で幸い最低限の被害で済みましたが、防火対策、非常時の対応など学内あげての取り組みが必要なことなど課題も明らかになりました。あとは、休み中の学生さんや教職員の事故などないことを祈るのみ。と、何だか用心深くなる今日この頃です。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二